

アマダイ通信NO. 141

(Tile fish network letter)

2022年もコロナで明け

知人・友人各位

コロナで明け、コロナで暮れた1年が終わり、ワクチン接種と治療薬の開発も進み、新年は皆様と一緒に自由な日常生活を取り戻したい。米中対立も懸念されるが、習近平の中国は何処へ行く？黄土高原緑化運動に参加寝起きしたことのある土で出来た粗末な窯洞（ヤオトン）に、文革で下放した若き習も住んだと聞き、故郷の貧しさに涙した以上を感じるものがあつたらうと推測。鄧小平の「先富論」を捨て「共富論」を打ち出す。遂に来るべきものが来た！と思う。レーニンにも毛沢東にも出来なかったマルクス主義の新たな地平を切り開くのか？文革に続く混乱をもたらすだけなのか？それとも？

◎紅萌ゆる吉田寮・半世紀前の現る

緊急事態宣言解除後の秋の一日、京都、大阪、広島駆け足出張。新幹線の自由席、二人掛けの座席は埋り、三人掛けの真ん中も半分は埋る。緊急事態の解除と人流制限緩和で、人の移動が活発化。京都駅から京大にバスで向かう。高齢の観光客が多いが、立つほどではない。母校に錦を飾る元文科省文教施設企画部長、一世代以上若い京大平井理事に久し振り面会。京阪電鉄出町柳駅前バスを降り、道を聞きながらキャンパスに辿り着く。银杏が色付き始めた広いキャンパス、案内を乞い探し当てた時計台から、京大本部は近くのビルに移る。学生も立ち入り禁止の東大と違い、学外者も出入り自由、大らか。

更に案内を乞い吉田寮へ。入口にはそこにだけ懐かしの立看板。大学当局が廃寮を迫り寮生は廃寮阻止を叫ぶ。紅葉燃える森に佇む築130年の木造の麓。三鷹寮で洗面ボールで炊いたおでんやすき焼きを仲間と突つき、安酒をあおり肩組み、「新墾（ニイハリ）のこの丘の上」と声張り上げた第1高等学校寮歌「新墾の」と並び歌われた「紅萌ゆる」第3高等学校寮歌。音痴のも高歌放吟した寮歌の古里。玄関の炬燵で男子寮なのに女子学生？が暖をとる。横の小部屋から半世紀以上前の如き若者。受付当番だという。東大三鷹寮のOBだと名乗り昔語りすると、三鷹寮にも連帯して欲しいという。

旧制第3高等学校の伝統を今に継ぐ吉田寮。戦後の学制改革で新しく発足した国立大学の学生寮は、比較的貧しい家庭の学生が多く住んだこともあり、学生運動の一大拠点となった。とりわけ東大駒場寮や京大吉田寮を筆頭に学内にあった寮は学生運動各派の活動家が寝泊まり、議論を闘わせ、立看板を作り、ピラを刷り、出撃拠点ともなった。全共闘運動が終息すると、駒場寮を筆頭に伝統ある自治の学校、旧制高校以来の自治寮は次々廃寮になり、旧制東京高校の流れをくむ東大三鷹寮も、自治寮から「東大三鷹国際学生宿舎」に姿を変え今に至る。ただ安く住めるだけの、ワンルームマンションと化す。京都の地には旧制高校の自治寮の伝統を若者に伝える自治の学校、京大熊野寮と吉田寮の2寮が辛うじて今に残る。「天皇機関説」や「滝川事件」、「学徒出陣」など、学問と権力の問題を巡る京大と東大の性格と歴史、権力との間合いの違いの象徴でもある。

◎人は社会的動物、老い楽の恋に疼くことはあるか？

緊急事態が解除され人に会うのが少しは忙しくなると、元気も出てくる。人は社会的

動物だと、つくづく思う。人に会えない間に朝日と日経をゆっくり楽しむ癖がつく。コーヒーを啜り新聞を広げるのは至福の時間だが、緊急事態宣言も解除、人流制限も緩和され、アポを入れられるようになったのだから、時間を有効に使い効率的に仕事をするので、より人の役に立ちたい。元気が出てくるとこれとあれ、あの人とこの人をつなぎと、頭の回転も早くなる感じがする。人間は社会的動物、人に会えてこそ。

アポが3つ入った日の朝、顧問先の新宿御苑の乗り換え案内のジョルダンで会議。紀伊国屋に寄る。朝日新聞に森村誠一の「老いる意味」と女性映画監督松井久子の「疼くひと」の広告。大作家でも老人性うつに悩む。鈍感力抜群の●でも人に会えぬ、仕事にならぬと落ち込むのも仕方ないか。70歳の女性映画監督は年下の男と激しい恋に落ち、生と性を謳歌する。池田理代子の「最後の恋」と言い、恋には年齢制限も定年もない、「生涯現役」、命尽きるまでか？最近99歳で大往生した瀬戸内寂聴も艶聞に事欠かない。恋は容姿と連動しない。「疼くひと」を求めるが、品切れだと言う。老いて楽しい恋はいつ手に入る？店員は予約して！と言うが、予約したら「老楽の恋」は手に入るのか？

予約しなくても手に入る「中国共産党帝国とウイグル」、「インド残酷物語」、「本能」、「宇宙はなぜ物質で出来ているのか」を好奇心の赴くまま求める。後期高齢者の健康保険証を頂いたが好奇心は健在。知力、気力、体力の限りを尽くし、24時間「革命のために！」と目を輝かせ走り回っていた頃、少なからぬ恋に燃えた。人生は「恋と革命」だ！リスクを取り、形振り構わず、信じるどころに従って突き進む。「老楽の恋」は何処？

◎20才の別れ。魂を変え、世界を変える！中国共産党結党100周年◎

東大入学、「選ばれし者」として、高度経済成長から取り残された故郷、白神の貧しさに涙、資本主義を廃絶、社会主義革命に勝利、故郷の人々と共に豊かになろう！階級も貧困も格差もない、自由で平和な民主主義社会を創ろう！しかし、社会党や共産党にも飽き足りない。革命は権力の問題で、権力は暴力によって支えられるが、選挙で権力を変えられるのか？社会主義を標榜するソ連や中国の現実にも、あれが社会主義なのか？と納得出来ない。その時「政権は鉄砲から生まれる！」、「世界の農村が世界の都市を包囲する！」、「革命は永続革命」、「不断革命としての魂の革命、文化大革命」が必要だ！毛沢東は叫ぶ。マルクスが「社会主義革命は世界革命」であり、発展した資本主義国、民主主義国のイギリス、フランス、精々ドイツから起こる。高度に発展した資本主義経済と民主政治の延長に社会主義は花開くとしながら、最も遅れた農奴制国家ロシアで革命は起こり、世界革命として直ちに他国に波及することはなかった。ロシア革命の父レーニンさえ提起することのなかった世界革命戦略を、毛沢東の中国が打ち出した！

マルクスは共産主義は「能力に応じて働き、働きに応じて取る」初期の社会主義段階から、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」共産主義の段階に発展するとしながら、如何にして社会主義の段階から共産主義の段階に発展するのか明らかにしなかった。一国で権力を奪取、生産手段の国有化後も世界革命が実現するまで、いやその後も共産主義段階まで、永続的に革命は必要で、それは魂を変える文化大革命だ！と毛沢東。迷いは氷解24時間革命のために！自身の人生は勿論、寮やクラスなどの仲間にも少なからぬ影響を与えた。学生運動の足を洗い、将来を約束することを迫る恋人とは二十歳の別離。

今になり文化大革命は権力闘争で、数千万人の死者を出したと批判されるが、権力闘争

でない革命運動などない。大量の死者を出したことは大いに批判されるべきで、カンボジアのポル・ポトの大虐殺にも通じる。共産主義の第一段階たる社会主義から第二段階たる共産主義に到るには、「能力に応じて働き、働きに応じて取る」ことを良しとする人間から、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」人間への人間像の変革が必要。資本主義経済は人間の欲望を最大に刺激、必要以上に消費を煽り資源を浪費、地球環境を破壊、生産と消費、利潤を最大化しようと、過剰生産による恐慌を繰り返す。自らの必要以上に生産、自ら必要とする量のみを取る。真に必要とする以上の物を求めず、それ以上の財やサービスは社会の共有とする。他人のために働くことを悦びとする共産主義的人間像が誕生する。「人新世の資本論」で斉藤幸平は社会主義体制での経済成長を否定するが、資本に雇われ時間を、労働力を売るのではなく、資本による疎外から解放され、労働者が社会の主人公として内発的に働くことで生産性も上がり、生産力も高まり豊かになる。科学技術も超速で発展、40 数億年後、膨張する灼熱の太陽に吸収され地球が滅亡する前に、もう一つの地球に人類が脱出、生き延びることを可能にする。地球誕生から 46 億年、500 万年の人類の発展を考えれば不可能ではない。技術革新による生産増大が文明を発展させて来た。

人間像の変革が権力に強制されれば洗脳となり、粛清・浄化、中国文化大革命とカンボジアのポル・ポトによる大虐殺へ。疎外から解放され生産性と生産力が発展、他人の悦びを自らの悦びとすることが出来る人間像が完成しない限り、平等の強制は清貧の共有と粛清に繋がる。鄧小平は文化大革命を否定、豊かになれる者から先ず豊かになる「先富論」を唱え、改革開放へと舵を切る。社会主義市場経済を導入、毛沢東とは逆に、市場経済、資本主義経済化のアクセルを踏む。人間の欲望を目一杯解放することで、生産性を高め、経済を発展させる。民営企業主導で経済が発展、コントロール不能になることを怖れた習近平はブレーキを踏み、民営企業を統制、国営企業の振興を図り、「共富論」を唱える。

急ブレーキを踏み、ギアをバックに入れるが如き習近平の路線は、鄧小平によって解放されてしまった、中国 14 億の民の欲望を満たすことが出来るのか？人間像の発展のないところでの「平等」の強制は、粛清・浄化に帰結しないか？外国の資本と技術を導入、欲望を解放、競争を煽ることでイノベーションを進め、経済の高度成長を実現した鄧小平。共産党独裁の崩壊を恐れ、一転して経済と社会の引き締めを図る習近平。統制と解放、「能力に応じて働き、必要に応じて取る」社会の実現のため、壮大な実験を繰り返す中国共産党。習近平はレーニンと毛沢東が為し得ぬ偉業を達成出来るのか？毛沢東のそれに変わる世界革命戦略、永続革命戦略はあるのか？戦略なき独裁、新たな開発独裁の末路は？

◎ジンギスカン、雄緬羊は数知れず、親父は 10 人、🐏は 2 人！

新宿 3 丁目の松尾ジンギスカンで知り合いとランチ。千歳空港の松尾で食べて以来久しぶり。コロナ禍、かわいそうなくらい客はいないが、ジンギスカンには特別の思い。誰かの製造責任者らしく、物好きで世話好きで、明治の郵便制度創設から続く田舎の特定郵便局長の父は、「生活改善運動」のリーダーも。率先して山羊を飼って乳を飲み栄養改善、緬羊を育て毛糸や生地に変換し防寒、終には乳牛まで飼って村人に範を示す。朝早く家族総出で乳搾り、大釜で煮沸、瓶に詰め紙の蓋を押し込み、子供達は村中牛乳配達。

我が家の庭に盛り土、明治以来庭を二分して走る五能線の斜面の立木に、登校前に山羊や緬羊をつなぎ、下校すると畜舎に戻す毎日。親父が村人の生活改善に力を入れるほど、

子供達の家内労働は増え、母の名義で電報配達も請け負い子沢山の家計を補う。赤い郵便自転車のペダルに足が届かない内から、自転車を倒し三角乗りし電報配達。近所の子供達と遊んでいても、お袋が近づき「革ちゃん！」と声が掛かると、遊びの輪から抜け出し電報配達。近所の子に比べ思うように遊べないのは不満。多少は本を読み、勉強もするようになり、佳境に入った頃にお袋から声がかかる。いいところだからと断ると、お袋が歩いて配達に向かう。トボトボ歩く後ろ姿を自転車で追いかけて人格が形成される。

近所の子に負けずに春秋は放課後アイナメ釣り、一匹 10 円でお袋に売り、こづかいの足しに。冷たい春の海でアオサやギバサを採り、海が荒れた翌日は遠くまで出掛け渚でワカメ拾い。山菜や茸狩りも楽しみ、木苺、山葡萄やアケビも味わう。他所の子以上に家畜のための草刈りや薪割りもし、畑仕事や田圃の手伝いも。貧しい時代、子供も貴重な労働力。夏は朝から夕方まで素潜り、サザエやアワビ、天草や布海苔、モズクやメカブを採った。遊びでもあり、生産労働でもあった。狩猟採集を遊びとし歓びを感じる。アイヌにつながる北方縄文人の血を引くからか？人類一般の系統発生故か？冬、北の大地は雪で覆われ子供達が手伝う仕事は少なく、坂道を竹スキーや橇、下駄スケートで滑り、凍った防火用水の上でスケート、ただ遊ぶだけ。村で一台だけのスキーを履き、五能線の盛り土の斜面で一人直滑降も楽しむ。

我が家には村中で一匹だけ雄緬羊がいて、繁殖期になると村中の牝が我が家の庭に集められ、朝から夕方まで生命の営みが続く。生き物には寿命があり、冬、庭の肥溜めの雪の上で屠殺され、命を終える。骨や内蔵は雪の下で微生物に分解され肥料となり、毛皮は敷物や防寒具となる。モンゴルの民に似て、貴重な冬場のたんぱく質の肉は家族の胃袋を満たし、近所にもおすそ分け。カレーライスや肉じゃがにもなるが、ジンギスカンがハイライト。鉄兜に溝が入ったような鍋に肉を載せ騰々と煙が立つ中、親父特製の林檎やショウガ、玉ねぎをすりおろした醤油だれで食べる。ご馳走だ。

雄緬羊は気が荒く●少年を手こずらせたが、セーターとなり体を温め、カレーライスやジンギスカンに姿を変えお腹を一杯にし、家族を村人を幸せにした。春先発情した村中の牝緬羊が我が家の庭に集められ、朝から夕方まで交尾。授精なくして子孫は残らず、緬羊も人類も再生産出来ない。我が家の歴代の雄緬羊達は孤軍奮闘、種の保存再生産、村人の生活改善に多大の貢献。親父もお袋を相手にしただけだが、9 人の子沢山で他に死産の姉が一人。●は子供二人。毎年雄緬羊から学んだ筈なのに、雄緬羊どころか親父の足下にも及ばない。今更頑張る訳にもいかない。埋め込まれた遺伝子の働きだけで、限られた期間に集中して種の保存のために頑張る雄緬羊。遺伝子の働きの他に快楽や愛情という後天的なインセンティブも与えられ、他の動物と違い時知らずの進化を遂げたが、少子高齢化の危機が叫ばれる人間界。雄緬羊のバイタリテー、本能に学ぶべきか？人間が獲得した快感と愛情、時知らずの性のインセンティブは時と所、相手を選び、心の通わぬ相手とは交われなくすることで、人口爆発、地球環境破壊を防ぐブレーキ、DNA 改変だったのか？

◎定年・再雇用と生涯現役

営業同行した顧問先の上場会社 2 社の営業部長二人、55 才で役職定年、ラインを外れ部下なしの部長、60 才定年で退職 65 才まで再雇用、給料はガクッと下がり年収 300 万円。手取りじゃなくて、税込みですよと嘆く。健康保険、雇用保険、労災保険など社会保険料

も差し引かれる。怖くて手取りはいくらなどと突っ込めない。60 才から年金も貰えるが、その先のことを考え再雇用が終わり収入が無くなる 65 才から貰うことにして、年金の受給額を増やしたい。長い余生を考えると当然の選択。

やり手の営業マンで退職後独立、●さんの様に営業コンサルを始める先輩もいるが、上手いかない。ゼネコンやサブコンの客先、設計事務所などの伝が頼りだが、会社を離れると縁が続かない。会社の金で飲み食いし、ゴルフで繋いで来た伝は、会社を離れると絶える。兵糧が続かず、金の切れ目は縁の切れ目、会社の看板と鞆があつての自分だったと知る。他に技術や資格、人脈がないと独立は難しい。モチベーションは落ちるが、給料が減っても会社に残るしかない。営業であればラインにいた時の様に会社の金でゴルフや飲み食いが出来ればいいが、接待の決裁権は数値に責任を負い、予算を持つ後輩のラインの部長や課長が持ち、ままならない場合も。サラリーマンが●の様に、独立して情報仲介、営業顧問業をするのは難しい。自宅を事務所に携帯 1 本でどころか、自宅と別に事務所を持ち、アシスタントを置いてというのは更に難しいという。

●も望んで情報仲介、営業顧問業を始めた訳ではない。学生運動の足を洗い、11 年在籍した東大を 30 才で卒業するも、口にチャックをし市民社会に紛れ込む気になれず、40 才まで受験業界でフリーター。年を経、実力を蓄えたかつての仲間達が社会でバリバリ活躍するのを見、遅れ馳せながら 40 才でサラリーマンに。50 才で友人とエコビジネスを起業するが失敗。50 過ぎてサラリーマンに戻る訳に行かず、前職の高橋カーテンウォールを辞める時に引き止められたことを幸い、営業顧問にして貰う。

バブルが弾け、PC カーテンウォールを外壁に使う様な立派な高層ビルは民間ではしばらく建たない。儲からないので営業しなかったが、官公庁や JR、NTT、UR などに営業しなければいけない。東大に長くいてしかも法学部卒だから、そんな固い所に知合いが沢山いる、営業に回れ！と先代の社長。営業ですか？と思うが反対なら辞めないといけない。学生運動に没頭、三鷹の寮に 7 年いて 7 回逮捕、刑務所にも未決で足掛け 3 年。人好きで同窓会活動も。顔だけは広い。官公庁や JR、NTT、UR などには「官僚養成学校」東大の OB が多い。「革命の大義」のためとは言え●の様にコースを大きく外れ、堀の中にまで落ち、頭を下げ営業して回る同窓はいない。顔の広さを頼りにかつての仲間や先輩を訪ねる。学生時代の、利害の絡まない裸の付き合い、人と成りはお互い承知、時空を越え旧交を温め、ネットワークの錆落とし。人好き物好き故、パブリックな活動にも色々関わり、自治寮時代に長く在寮、寮委員長もした東大三鷹寮では現役寮生との付き合いが今に及び、繋がりには更に広がる。バブル崩壊、リーマンショックと PC カーテンウォールの市場は縮小、同業他社が淘汰される中で、高橋カーテンウォールが残存者利得を占めるのに貢献。

ネットワークがあっても売る物がないと営業は成り立たない。Victor の先輩が外壁に PC カーテンウォールを使う様な大型ビルには必ず Victor の AV 機器や館内放送、監視カメラ、本社や議会が入るなら会議システムが入る。施主や設計事務所、ゼネコンと売り先は同じだから一緒に売れ！と Victor の顧問にも。Victor の製品を扱う電設資材の商社、因幡電気の顧問にもと、売り物も増え、売り先の側も選択肢が増えるメリット。

ビルの骨組みは鉄筋と鉄骨で造られるが、三鷹寮の 4 年先輩で、通産審議官から父上が創業、バブル崩壊で経営危機に陥った鉄鋼商社阪和興業の 3 代目社長に転じ再建した北先輩が、顔が広そうだからと営業顧問にしてくれる。鉄は建築だけでなく、道路や鉄道、

橋やトンネルなど、土木工事でも使う。建築だけでなく、土木にも売り先が広がる。電源開発のリスクと費用で井戸を掘り、ろ過設備を作って浄水を安く供給し経費を削減、水源を二重化することで、地震や台風で市水が止まっても事業を継続出来る新規事業、井水利用専用水道システムを、駅ビルや国立大学などの病院、商業施設やホテル、複合ビルなどに営業する、「水商売」の水先案内の声もかかる。学生時代のアルバイト仲間が創業した、乗り換え案内のジョルダンの顧問にもなり「無形資産」、ソフトも売り物に。

50 才過ぎて起業に失敗、窮余の策で始めた情報仲介、営業顧問業、「人と人、人と夢を繋ぎ、夢を形にする」。学生時代から期せずして築かれたネットワークの広さ、謂わば売り先と売り物があつてのマッチング。人が社会的動物、類的存在であることに根差す稼業。AI 利用のデジタル化が急速に進むマッチングビジネス。「人新世の資本論」の斉藤幸平が説く、人間の生活に欠かせない「エッセンシャルワーク」からは遠いビジネス。「生涯現役」と嘯くが、どこまで続けられる？助け助けられ、人の役に立つ。人の縁に深く感謝。

◎大源太山へ！登りきる、「老後は」湯沢で？

隔週日曜日の小川カントリー、チーム●3 組 11 人でゴルフ。前日、四駆のリッターカー、トヨタルーミーに自転車を積み込み越後湯沢まで足を伸ばす。岩原スキー場中腹の娘のマンションから急坂を麓まで自転車で降りると、帰りの登りがきつ過ぎる。スキー場の麓の駐車場に車を停める。梓川変じた千曲川は小諸なる古城の畔を流れ来て信濃川に。大河信濃に越後川口で合流する魚野川の川辺を自転車一時間、標高 1598m、谷川連峰の北端、上越のmatterホルンと言われる大源太山の麓の駐車場まで、フラットバーのスポーツサイクル、21 段ギアをフル活用、標高で 4、5 百 m は登ったろうか？着座で辿り着く。

前夜勝どきの 100 円ショップで買った大小 2 つの熊避け？の鈴とせせらぎの合奏を聴き、道端のコスモス、萩や名も知らぬ花々を愛で登る。帰りは恐いくらいのスピード。時にブレーキを引き 30 分もしないで走り降りる。ススキの群れが風にそよぎ、黄金の稲穂がその向こうで頭を垂れる。必死に漕いで目先ばかり見ていた時には見えない景色も見える。遠く岩原スキー場の全景を眺め、中里スキー場の麓を走り抜け岩原スキー場へ。麓の駐車場から中腹のマンションまで、急坂にチャレンジ、程なく引き返す。21 段ギア 10 キロ超のフラットバーのスポーツ車では無理。27 段変速、6、7 キロくらいの軽量のドロップハンドル車をゲットし再チャレンジするかとも思う。自転車の限界ではなく体力の限界を知らされるだけかと思うが、体力の限界でないとなれば魚野川に注ぐ沢を縫う、景色の違う多くの野趣溢れる林道の登り降りを楽しめる。

岩原スキー場の娘のマンションは冬場は駅から無料のシャトルバスがあり、店やレストランも開き生活にさほど困らないが、夏場は湯沢駅からタクシーを走らせると 2 千円、飲食、買い物も不便。スキー場も広くなだらか、初心者やファミリーにはいいが、ベテランには物足りない。娘や孫達と生活スタイルも生活時間も違い片身が狭い。夏場も山道でサイクリングを楽しめるなら、晴海のマンションのダウンサイジングで得た売買益、老後資金 2 千万円の一部で湯沢の温泉街のリゾートマンションを買っての通年利用はどうか？関越道の渋滞なしで片道 2 時間半、スキーシーズンは時間が読めず、大雪で車がエンスト、翌朝新幹線で帰京したこともある。新幹線で東京駅から 1 時間 10 分、手ぶらでスキーもサイクリングも楽しみ、道中新聞や本が読め、気兼ねなく美味しい蕎麦や地料理、

地酒を楽しめる。「老後」は生活の拠点を湯沢に移し、読書三昧・温泉三昧、時々東京。晴海のマンションの賃料で、サラリーマン生活が短く少ない年金を補えないか？

水商売、電源開発の井水利用専用水道システム営業の相方、電源開発 0B の K さんが、越後湯沢は神楽の揚水発電ダム工事現場の所長時代に入り浸っていた？湯沢のクラブの東京育ちのママ、今は地場不動産会社の美人社長夫人に話を聞く。5 キロのロングダウンヒルの湯沢高原スキー場のゴンドラ駅直近、温泉街の買い物・飲食、交通も便利な温泉付き中古マンションを探す。テレワークの影響か？適当な出物がみつからず、マンション探しは越年。自転車で頑張り過ぎたか？翌日のゴルフのスコアも冴えず、110 を越える。

◎元気な若者・・昔、革命！今、起業？


半世紀前、戦後の貧しさがまだ残る頃、元気で多少の義侠心を持つ若者は学生運動に身を投じた。コロナ禍、若い諸君に交流の機会を作り、経験を交換、ネットワークを広げ、「選ばれし者」としていずれ社会に大いに貢献して欲しい！三鷹クラブで寄付を募り、食事を提供、オンライン交流会で若者と交流を深める。豊かな社会に生まれた今の元気で社会意識のある学生は、社会的問題の解決をビジネスチャンスと見て、起業に挑むのかと思う。🐟も学習塾や教科書会社、現在の営業コンサルなど幾つか起業。10 数年前友人と二人で 1 千万円出資、ウッドプラスチックテクノロジー（株）を設立、木粉 7、プラスチック 3 を高速回転、高温熔融し高圧プレス、新しい素材で冷蔵・冷凍倉庫用の搬送パレットをつくる事業を立ち上げる。ユウグレナほどではないが出資者探しに苦勞。農水省の補助金 5 億円を得、10 億円で工場をつくる目処がつき、ようやく東大エッジキャピタルが 2 億 5 千万円出資。大喜びするが、程なく二人は会社の支配権を失ったことを思い知り、会社を追い出される。好事魔多し、若い諸君は他山の石として頑張るって欲しい。

◎第 12 回三鷹寮オンライン交流会（2021.08.28）


参加者は横字史年（2015・文Ⅲ・岡崎）、柴田卓巳（2016・文Ⅲ 教養学部学際科学科地理・空間コース 大学院総合文化研究科（人文地理学）修士 1 年・東葛飾）、吉田さやか（2018・文Ⅲ 教育学部教育心理学コース・広大附属福山）、Dhruv Iyer（2019・理Ⅰ 工・機械情報工学科・ムンバイ）、浦彩人（2019・理Ⅱ 工・機械情報工学科・初芝富田林）、宮下祐真（2019・文Ⅲ 教養学部教養学科総合社会科学文化相関社会科学コース・土浦第一）、Rakhshona Nabibullaeva（2020・大学院情報学研究科 修士 1 年・ウズベキスタン）、桑原秀彰（2020・文Ⅰ・札幌南）、下村信雄（2020・文Ⅰ・六甲学院）、富張聡祥（2020・理Ⅰ・高崎）、山本龍一郎（2021・新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻 修士 1 年・私立市川・東北大）、石井修都（2021・理Ⅱ・長田）、大西元樹（2021・理Ⅰ・加古川東）、中山李里子（2021・文Ⅲ・リビングストーン（米国））、藤田晃弘（2021・理Ⅱ・北海道登別明日中等教育学校）、森川力斗（2021・理Ⅰ・広大附属）、青山絵里香（2016・文Ⅲ 文学部東洋史学専修・一宮）、園田夢之介（2015・文Ⅲ 教養学部学際科学科・北海道帯広柏葉）、吉井啓太（2012・理Ⅱ 農学部獣医・筑紫丘）、杉本洋平（1995・文Ⅰ 法・新潟国際）、久米知之（1994・文Ⅰ 法・公法学科 大学院法学政治学研究科専修コース（公法）・東大寺学園）、飯田徳松（1966・文Ⅲ 農学部農業経済・上野）、🐟（1966・文Ⅰ 法、能代）、井原正登（1965・理Ⅰ・長野）、打林國雄

(1965・理Ⅰ 都市工学科・富山中部)、辰紘(1965・文Ⅰ 教養学部教養学科国際関係論・三国丘)、安藤誠四郎(1962・理Ⅰ・修猷館)。


◎第13回三鷹寮オンライン交流会(2021.09.25)

参加者は横字史年、柴田卓巳、田近太一(2017・理Ⅲ 医学部医学科・札幌北)、菅野晃太(2018・理Ⅰ 工学部システム創成学科・旭川東)、白寧杰(2018・理Ⅰ 理学部情報科学科・中国・東北育才外国語学校)、Dhruv Iyer、旭博佑(2019・理Ⅰ・久留米大学附設)、黒田光太郎(2020・理Ⅱ 農学部緑地環境専修・愛光)、白砂老唯(2020・理Ⅱ・筑波大附属)、関戸悠真(2020・理Ⅱ・仙台第一)、富張聡祥、安藤和真(2021・理Ⅰ・静岡)、石井修都、中山李里子、藤田晃弘、森川力斗、青木翔平(2005・理Ⅰ 航空宇宙工学科 航空宇宙工学専攻博士課程・米子東)、西岡賢一郎(2004・理Ⅱ 教養学部広域システム科学科 総合文化研究科広域科学専攻・ラ・サール)、久米知之、勝部日出男(1968・文Ⅰ・法・米子東)、、井原正登、打林國雄、辰紘、宮村智(1965・文Ⅰ 法学部・1978 ハーバード大学LLM・津)、安藤誠四郎。

◎第14回三鷹寮オンライン交流会(2021.10.30)

参加者は横字史年、柴田卓巳、田近太一、吉田さやか、旭博佑、桑原秀彰、下村信雄、富張聡祥、三ヶ尻祥汰(2020・理Ⅱ・大分舞鶴)、山本龍一郎、伊神勇希(2021・理Ⅰ・東海)、石井修都、齋藤優季(2021・理Ⅰ・東海)、中山李里子、森川力斗、勝部日出男、飯田徳松、、井原正登、打林國雄、辰紘。

◎第15回三鷹寮オンライン交流会(2021.11.27)

参加者は横字史年、柴田卓巳、田近太一、橋本涼太郎(2018・文Ⅱ 経済学部・大分豊府)、小山圭登(2019・文Ⅰ 教養学部教養学科総合社会科学分科国際関係論コース・新潟南)、宮下祐真、下村信雄、関戸悠真、富張聡祥、村松泰知(2020・文Ⅲ)、安藤和真、大西元樹、近藤圭悟(2021・理Ⅰ・宇都宮東)、齋藤優季、中山李里子、野村直矢(2021・文Ⅰ・旭丘)、藤田晃弘、安井ことみ(2021・文Ⅲ・四日市)、久米知之、高見邦雄(1966・理Ⅰ 中退・米子東)、、井原正登、打林國雄、遠藤昭(1965・理Ⅰ 法学部・水戸第一)、門田睦雄(1965・理Ⅰ 工学部建築学科・豊津)、辰紘、牟田博光(1965・理Ⅰ 教育学部教育社会学・久留米大学附設)、安藤誠四郎、芳賀達也(1959・理Ⅱ 理学部生物化学科 理学系大学院生物化学専攻・厚木)、小田切昌克(1957・文Ⅰ 経済学部経済学科・中野実業)。

◎Come, come, everybody! (結びに代えて)

オンライン交流会の開催に通信の発行が間に合わず、参加者名だけの記載になる。4千名ほどのOBの内3千名の名簿をつくり、終身会費1万円の入会者千人を集めスタートした東大三鷹クラブ。この先あのような名簿を作るのは不可能と思い、毎回巻末に参加者名を記す。若者が20年、30年後、20人が20人を思い出し、ネットワークの鏽落としをする時に手掛かりになればと思う。社会的動物、類的存在としての人間にとって、人間関係ほど大事なものは無い。如何なる関係の中で生きるか?役に立てばと思う。再見!